

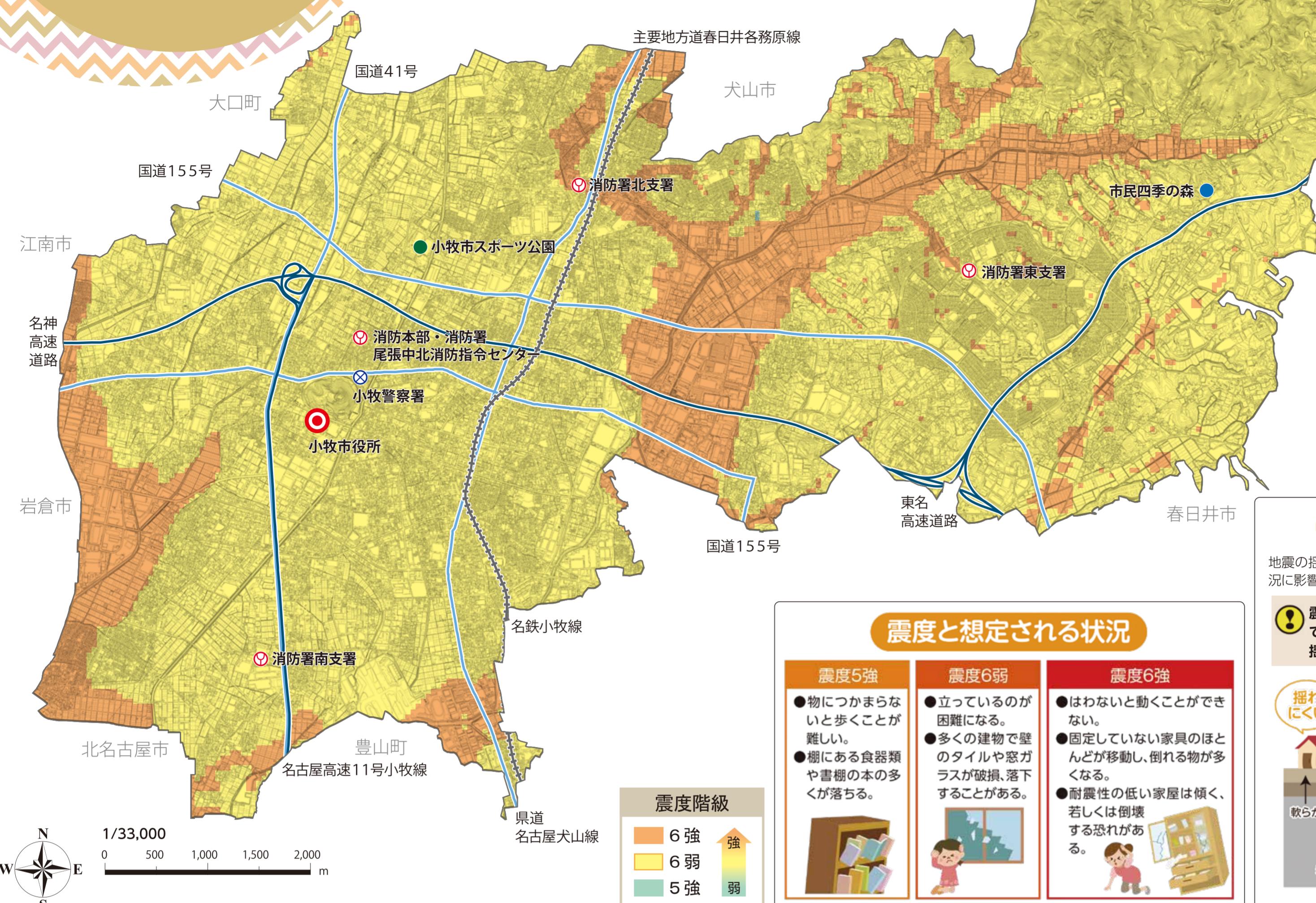
# 地震防災 マップ

## 想定濃尾地震

発行 令和3年9月  
小牧市役所 市民生活部 防災危機管理課

### 想定濃尾地震の揺れやすさマップ<sup>†</sup>(震度分布図)

下の図は、予測される震度の分布を示した地図です。  
市内のほとんどの地域が震度6弱以上の強い揺れに見舞われ、小牧市  
全域に大きな被害を与える可能性があります。地盤が柔らかい箇所では、  
震度6強の非常に強い揺れが発生するおそれもあります。



#### 想定濃尾地震とは

想定濃尾地震は、明治24年に発生した  
我が国最大級の内陸直下型地震である濃尾  
地震が再発した場合を想定しています。  
◎最大級の内陸直下型地震  
マグニチュード8.0

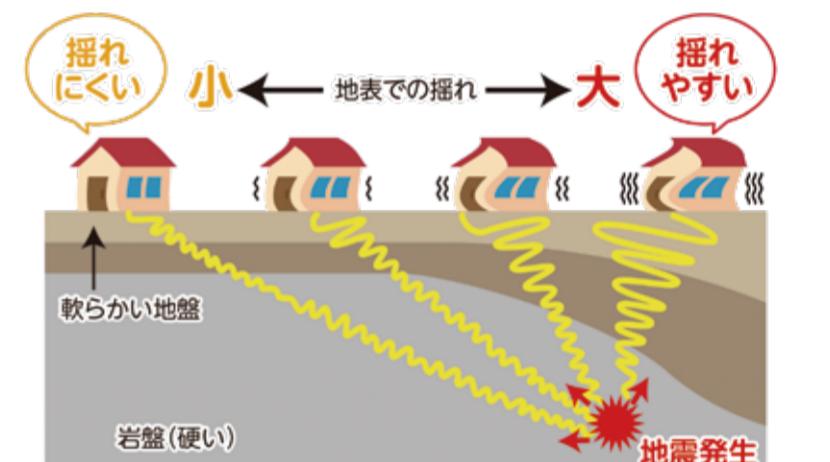


#### 揺れやすさとは

地震の揺れの大きさを表す震度は、震源からの距離や地盤の状況に影響されるため、場所によって異なります。

震源から地表付近までの距離が近いほど  
揺れは大きくなる。

硬い岩盤では揺れにくく、軟らかい地盤では揺れやすい。



#### 震度と想定される状況

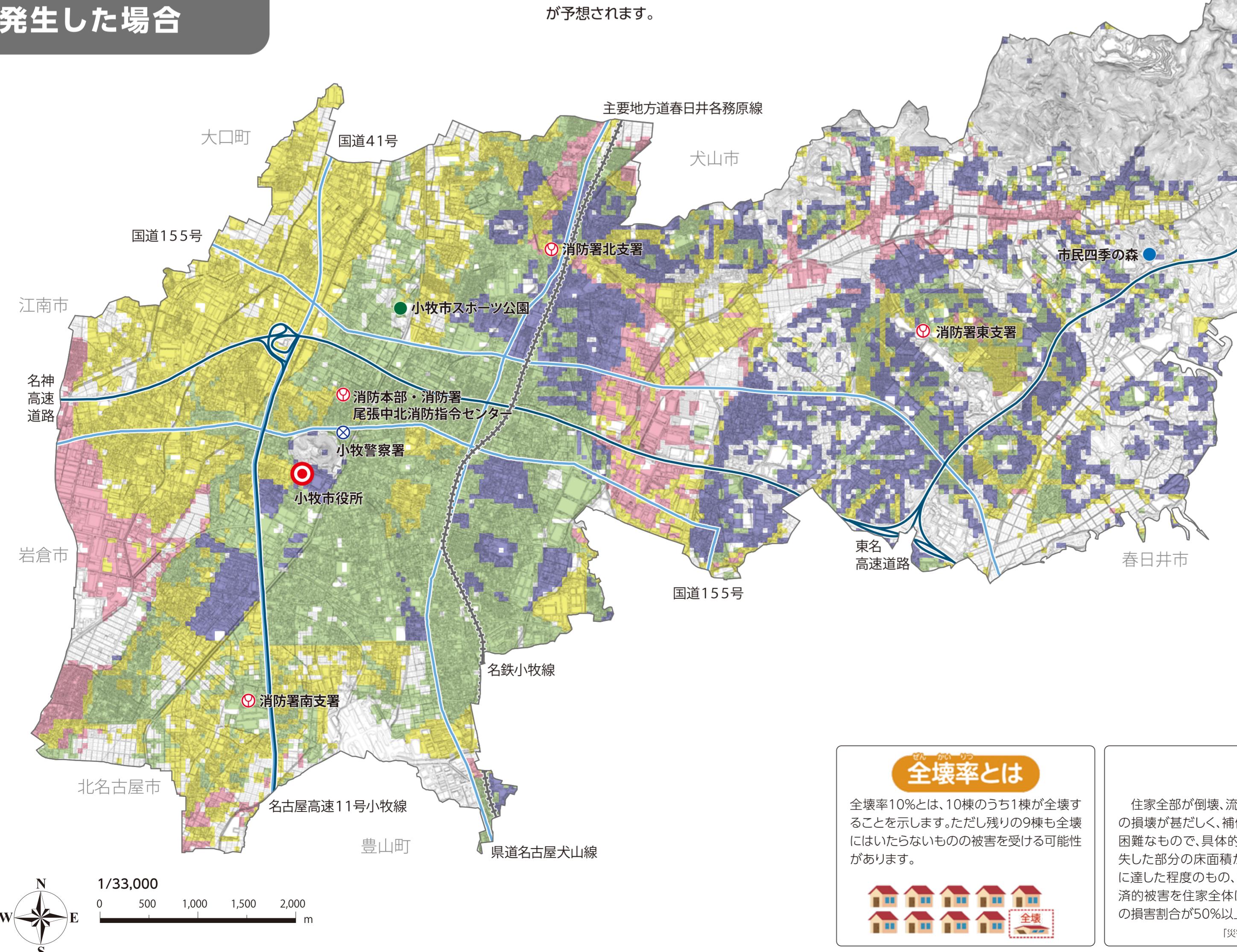
震度階級	震度5強	震度6弱	震度6強
6 強	●物につかまらないと歩くことが難しい。	●立っているのが困難になる。	●はわないと動くことができない。
6 弱	●棚にある食器類や書棚の本の多くが落ちる。	●多くの建物で壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。	●固定していない家具のほとんどが移動し、倒れる物が多くなる。
5 強			●耐震性の低い家屋は傾く、若しくは倒壊する恐れがある。

### 想定濃尾地震の危険度マップ<sup>†</sup>(建物全壊率分布図)

下の図は、想定震度と建物の状況から建物の全壊率を算定し、建物倒壊による地域の危険度を示した地図です。

建物全壊率が大きくなるほど、その地域が受ける被害が大きくなることが予想されます。

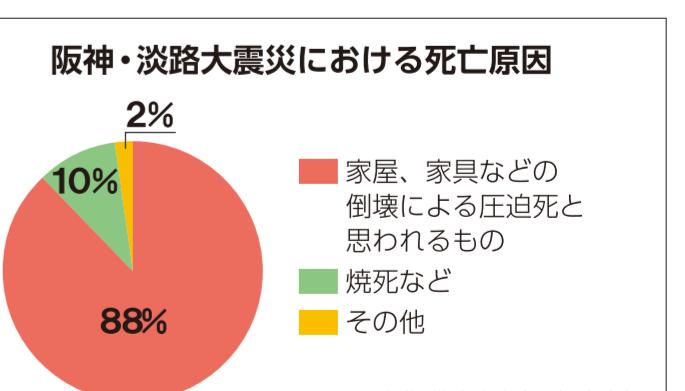
#### 想定濃尾地震が 発生した場合



#### 耐震化・安全対策の必要性

阪神・淡路大震災では、犠牲者の約9割が家屋の倒壊や家具の転倒などが原因で亡くなっています。

地震による被害を最小にするためには、家屋の耐震化や家具の転倒防止対策などに取り組んでいくことが重要です。



#### 全壊とは

全壊率10%とは、10棟のうち1棟が全壊することを示します。ただし残りの9棟も全壊にはいたらないものの被害を受ける可能性があります。



住家全部が倒壊、流出、埋没、焼失したもの、または住家の損壊が甚だしく、補修により元通りに再使用することが困難なもので、具体的には、住家の損壊、焼失若しくは流失した部分の床面積がその住家の延床面積の70%以上に達した程度のもの、または住家の主要な構成要素の経済的被害を住家全体に占める損害割合で表し、その住家の損害割合が50%以上に達した程度のもの。



「災害に係る住家の被害認定基準運用指針(内閣府、平成25年6月)」を参考に作成。